

# 雑学 鳥獣植物戯詩

全24回

八木幹夫

## 第21回【赤まんま―さらば、清水哲男―】

清水哲男さんが2022年3月7日に亡くなった。詩人としては現代の詩集賞（H氏賞、詩歌文学館賞、萩原朔太郎賞、晩翠賞、三好達治賞、丸山薫賞等）のほとんどを受賞しているが、俳句の世界でも知らない人はいないほどだ。ネット上の「増殖する俳句歳時記」は20年間、毎日欠かさず一句鑑賞を掲載し続けた。俳句独自の師系や結社にこだわらず、広い視野の鑑賞は俳人だけでなく、様々な人々に俳句の魅力を伝え続けた。

野球好きで、みずから草野球チーム「ポエムズ」の監督を引き受け、詩人たちを多摩川べりに集め、野に遊ぶ喜びを広めた。セントラルリーグの日程表制作に関わった詩人で作家の清岡卓行氏とも交流があった。（猛打賞の名付け親）。はじめは巨人ファンだったが、ある時期からは「さらば、東京巨人軍。」というエッセイ集でアンチ巨人の立場を表明。以後、哲男さんと麦酒を呑み交わしても巨人戦の話はタブーとなった。私は巨人ファンをやめられなかったからだ。父の世代の赤バット川上哲治の残影のためだ。清水哲男追悼句会での選外句。

多摩川に赤バットふる赤まんま 山羊